

蔵王堂

金峯山寺の本堂である蔵王堂は国宝で、三体の蔵王権現像が安置されています。蔵王権現像は、普段は参拝できませんが、時々一般公開されています。訪れた人は、この見事な蔵王堂の中で他にも多くの宝物を目にすることができます。金峯山寺の蔵王堂は、奈良の東大寺大仏殿に次いで日本で二番目に古くて大きい木造の建物です。

蔵王堂にある柱のほとんどは塗装されておらず、松や杉の他につつじなどが使用されていると言われ、自然のままの柱です。

伝承によると、修験道の開祖である役行者（634–701）は、7世紀中にこの場所に金峯山寺を建てました。何度も焼失し、何度も修復され、現在の蔵王堂は1592年に建てられた、非常に古いものです。

僧侶は、毎日の護摩を行います。この儀式は、蔵王堂の中で護摩木を燃やします。この儀式は毎朝修行として行われており、一般公開されています。